

## 「日野原重明さんを偲ぶ」

7月18日、聖路加国際病院名誉院長日野原重明さんが亡くなりました。経管栄養や胃ろう等の延命措置を望まず、自宅での療養を選び、最後は家族に見守られ亡くなったということです。105歳でした。日野原さんは100歳を超えてもなお現役医師として患者と触れあう一方、著述や演劇、音楽など文化面でも幅広く活躍されていました。

人になつたら、自分の時間を人のために使うことができるようになってください。」と優しい眼差しで語りかけている場面を思い出します。

日本は世界に誇る長寿国であり、平均寿命は約84歳になります。日野原さんのように100歳を超える高齢者は全国で約5万9千人いるそうです。しかしながら、厚生労働省の調査によると健康寿命は男性の平均が71歳、女性の平均は74歳であり、健康で豊かに長生きできる高齢者を増やすことが今後の日本の大きな課題です。

「健康で豊かに長生き」には、東秩父中学校長 大木 剛

子どもたちと語り合う「いのちの授業」は10年以上も続けてこられました。子どもたちに「行動が大事です。やろうと思うだけならやらないのと同じです。大

健康で豊かに長生き」には、東秩父中学校長 大木 剛

日野原さんは2年前（103歳当時）、ある新聞社のインタビューに「私の目標は2020年に開かれる東京オリンピック・パラリンピックまで元気であることです。」と話されています。無念だったのかもしれない。

## 我が家のニューフェイス



鈴木 太鳳 くん

生年月日 平成28年6月23日  
(大字坂本)

お父さん 崇史さん  
お母さん 景子さん

こんにちは！ほく、たおだよ。  
いつも、子育て支援センターで遊んでいるよ。  
あんよができるようになってきたから、早くお外で、お姉ちゃんと遊びたいな。  
みんな、よろしくね☆

### 東秩父を全力応援！

## 地域おこし協力隊通信



### 竹縄(たかなわ)って、ご存知ですか？

竹縄とは全国的にも珍しい竹を材料にした縄で、この技術が残っているのは東秩父村だけだと言われています。

村内では萩平地区で盛んに作られ、その技術は江戸時代から伝わっています。非常に強じんで水にも強く耐久性もあり、ロープが無かった時代には、やぐら、みこしなどの結束材や、船綱、馬のくつごに使用されていました。昭和30年代頃からナイロンロープが普及し始め竹縄の生産は衰退しましたが、現在では竹縄技術保存会という地元の方が作る団体が技術継承のために活動をしています。

保存会の活動に参加するのは今年で3年目になりますが、最近では都内や近隣の竹細工職人が参加しに來たり、新聞社に取材されたりと、新たな動きをみせています。「竹がどうやって縄になるのか」が一番関心が高く、竹職人の方いわく竹を縄にする活用の仕方は見たことが無いそうで、工程がとても興味深いそうです。

作業工程としては、夏場の竹切り、竹あぶり(油抜き)、竹を一定の幅に裂く竹割り、乾燥させて保存をしておきます。使う時に竹を水に浸したあと、1枚ずつ内側からうすく剥いていきます。この工程は竹へぎといい、出来を左右する重要な工程です。そして芯に竹をまきつけ(なわより)、これを3本にまとめて(縄ぶち)、さらによりをかけて完成です。

「この技術を繋いでいかなければと奮闘した当時の先人たちがいた。(こうして広まってきて)今きくと喜んでるよ」という地元の方の言葉が印象的でした。竹縄に対する想いや、萩平地区の里山の暮らしのお話もどれも貴重な内容で、もっと多くの方へ知っていただきたいと思いました。

